

ぼくのノオト

③7 魂の宿る物

長年の相棒との別れが、ついに来た。

出逢ったのは、池袋の登山用品店。十五年も前になる。初めて出かけたのは、コタキナバルの熱帯雨林だった。それから、八ヶ岳に登ったり、サッカーボールを蹴ったり、時には講演会にも行った。

お気に入りの車や楽器、毎日使い慣れた茶碗。本人だけがわかる愛着のある物は、身の周りにたくさんある。すべての物には魂が宿るといえるが、それは長い時間を共にした人だけが感じられる特別なもの。

毎日使っているパソコンやスマホにも、魂は宿るのだろうか。個人的に好きな物の商品広告や、興味のある動画は、どこで調べたのか湯水のごとく押し寄せてくる。それを商魂というのなら、ずいぶんと薄っぺらな時代になったものだ。

甘い誘惑の向こう側に、希薄な力モに化けた自分が見え隠れする。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操